

# ハイグンイヌシデ

かぶといわそう      さんしゅつ  
— 兜岩層で最も多く産出するクマシデ属 —

ハイグンイヌシデは、イヌシデの化石種で、350 万年前に堆積した兜岩層でも産出します。

## 兜岩層から産出する クマシデ属

- ・ハイグンイヌシデ（最も多く産出）
- ・クマシデ
- ・チュウシンシデ
- ・ムカシサワカンバ



ハイグンイヌシデの葉  
SNM-F-Kb-775



ハイグンイヌシデの翼果  
SNM-F-Kb-725



クマシデ属の果苞

## げんせい 現生のクマシデ属

下仁田の落葉広葉樹林に生育するクマシデ属の中では、イヌシデが多く見られます。

## かほう      よくか クマシデ属の果苞と翼果

クマシデ属は、果苞と呼ばれる翼果（果皮の一部が平べったい翼状に発達した果実）の塊をつくり、種子が生育するまで保護します。

種子が成熟すると果苞は分解して、個々の翼果が翼のようになり、風に乗ってくるくと回転することで滞空時間を長くし、遠方に飛散します。

翼果の形と大きさだけでも種が同定できます。

## 葉によるイヌシデの見分け方

イヌシデは他のクマシデ属の植物より葉の長さに対する横幅の比率が大きいことが特徴です。